

第 14 回中部電力原子力安全向上会議アドバイザーボード 議事要旨

1. 日 時：2021 年 1 月 26 日（火）15 時 15 分～17 時 00 分
2. 場 所：中部電力本店内会議室
3. 出席者：＜社外委員＞

（本店ビルにて出席）小林委員、勝治委員、長崎委員

（Web 会議にて出席）服部委員、横山委員

＜社内委員＞林社長、倉田副社長、平岩副社長、三澤専務

（経営考査室長、総務・広報・地域共生本部部長、原子力部長、
経営戦略本部計画部部長等同席）

4. 議事要旨

「前回のアドバイザーボードでのご意見について」、「原子力安全向上に向けた更なる取り組み（ロードマップ）」の振り返りと今後の対応、「2021 年度の取り組み方針」について当社より説明。多岐にわたる議論がなされた。

社外委員からの主な意見は以下のとおり。

- 原子力安全向上は人財が重要なので、PRA^(※) 技術者の育成には力を入れてもらいたい。
（※）PRA (Probabilistic Risk Assessment)
…確率論的リスク評価。事故に至るリスクを定量的に示す手法
- 社員が取組内容をどれだけ理解できるかは非常に大切である。今回、新ロードマップはシンプルで文言も含めてわかりやすくなっていると評価できる。
- 安全文化の土壌構築には、現場の人が自分の役割と責任を理解・納得したうえで、仕事を通じて体得した暗黙知を積み上げていくという地道で泥臭いことを、1 回や 2 回ではなく、継続してやることが重要である。
- 事故発生時の被害最小化には、現場のリーダーに権限を付与して OODA^(※) を徹底させることが必要である。
（※）OODA (Observe Orient Decide Act)
…観察、情勢への適応、意思決定および行動のループにより、健全な意思決定を実現する手法
- 社外起因の事象発生の可能性は、多面的に考えていくことが重要である。例えば、地震・津波以外にも、河川の氾濫、台風の大型化、強風、大雨、大雪、霜、猛暑、新型コロナウイルス感染拡大の影響、人為的な事象等、もう一度体系的に整理する必要がある。
- 訓練でできないことは実践でできるはずがないので、発生時対応の訓練は重要である。訓練は、身体知と暗黙知の間を埋める最良の手段であり、具体的なイメージを明確にし、計画的・体系的に進めていくことが重要である。
- 原子力の人財確保に関して、電力会社間で協力していく必要もあるのではないか。
- たとえを用いた資料と専門用語を用いた資料それぞれの効果を踏まえて対応することが必要である。
- 若者の動画閲覧は YouTube が多いため、短いイメージ動画のようなものを、YouTube で発信してもよいのではないか。

以 上